

◆ 荒川都税事務所長賞 ◆

「税金で貢献」

荒川区立諏訪台中学校 第1学年 渡辺 美海

私は今まで、税金に対して良い印象を持っていなかった。物を買う時、追加で支払わなければいけない嫌な存在だ。そう思っていた。

だが、今回、税について様々なことを調べ、自分の無知を知ることになった。「ただ金をとる存在」と思っていた税金は、想像以上に様々な用途に使われていたからだ。例えば、教科書の無償提供、道路の整備、ゴミの処理、救急や警察等のサービス。私たちは、これらのサービスを無償、あるいは安く受けられる。そう、私たちの生活は、税金によって支えられていると言えるのだ。

しかし、世の中では、減税や消費税の廃止を訴えている人も多いように感じる。そこで、二十五パーセントというとても高い消費税が課されながら、今年度の世界幸福度ランキングで二位を獲得したデンマークについて調べてみることにした。

デンマークは、税金が高い分社会保障が充実している。なんと、教育費、医療費、介護費が無償で受けられるのだ。子育てで忙しい人や、高齢者の方にとっては、とても有難い。また、フィンランドにも同じ事が言える。フィンランドの消費税は二十四パーセント。だが、世界幸福度ランキングでは六年連続で一位を獲得している。日本が同ランキングで四十七位であることから、その凄さが分かるだろう。

これらの国は、それぞれ消費税が二十パーセントを超える国でありながら、国民の満足度はとても高い。これは、例え負担が大きくても、税金を払うメリットが感じやすくなっているためだと考えられる。

では、どうすれば日本も多くの国民が進んで税金を払える国になれるのだろうか。

考えられるのは、税金の使い道や、支払うことのメリットを国民が知れるよう取り組むことだ。だが、それより重要なのは、私たち国民が積極的に税について知ろうとすることだ。なぜ増税されるのか、何のために税はあるのか。調べ、考え、納める。

そうすれば、今まで気づかなかったことや、新たな疑問が発見できるのではないだろうか。

私は今回税の作文を書いて、税金に対しての印象が百八十度変わった。今まで私が納めた税金は、少しずつだが誰かのために使われていると思うと、納税者になれたことを誇りに思う。私はまだまだ税についての知識は少ないが、早く働いて税を納め、もっと社会に貢献したいと思っている。今の私が納税できる金額は少ないが、国と、未来を生きる人たちのために、これからは積極的に税に関わっていこうと思う。